



2020年6月16日

各位

会社名 株式会社ジェイホールディングス
代表者名 代表取締役社長 眞野 定也
(コード：2721 東証ジャスダック)
問合せ先 取締役 中山 宏一
(TEL 03-6430-3461)

n

通期業績予想と実績の差異に関するお知らせ

当社が、2019年2月19日付「平成30年12月期 決算短信」にて公表いたしました2019年12月期（自2019年1月1日至2019年12月31日）の通期連結業績予想と実績に差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 2019年12月期通期連結業績予想と実績の差異（自2019年1月1日至2019年12月31日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	1,134	106	104	79	29.22
今回実績 (B)	1,501	△283	△287	△295	△108.05
増減額 (B-A)	366	△390	△392	△375	—
増減率 (%)	32.3%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2018年12月期)	1,362	△242	△246	△253	△116.72
※					

※2020年6月16日付「(訂正)「平成30年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について」で公表させていただきました数値となっております。

2. 差異の理由

2019年12月期連結会計年度におきまして、スポーツ事業については売上高100百万円（前期比2.5%増）、営業利益28百万円（前期比16.0%増）と増収増益となりました。しかしながら、不動産事業については、売上高は1,330百万円と前期を17.7%上回ったものの、業績予想発表時に想定した利益率の高い仲介事業に関する成約件数が大幅に未達成となったことから、販管費を吸収するだけの売上総利益を計上するに至らず、118百万円の営業損失となりました。また、Web事業については受注開発事業を継続いたしましたが、売上高が71百万円にとどまり、64百万円の営業損失を計上するに至りました。その結果、売上高については前回発表予想を上回ったものの、営業利益については前述の各事業セグメントには配分していない全社費用129百万円を加味すると上記の営業赤字となり、以下、経常利益、親会社株主総会に帰属する当期純利益ともに予想を下回る結果となりました。

株主・投資家をはじめ関係者の皆様には、多大なるご迷惑とご心配をお掛けいたしておりますこと、改めて深くお詫び申し上げます。

以 上